

電機ジャーナル

TAKAHIRO NONAKA

SHOJI ARINO

野中孝泰



有野正治

特集①

新旧委員長対談

これからの 電機連合



DENKI JOURNAL

FOREWORD

電機連合 副中央執行委員長 中澤 清孝
ふ えきりゅう こう
不易流行

風が吹けば組合【ほくら】はどうなる!? ①

IoTで働き方が変わる!?

INSIDE ▶ OUTSIDE

労働:大澤 賢

— 神津里季生 連合会長インタビュー —

「発想がおかしい『一億総活躍社会』
安倍首相はもっと民意をくむ努力を」

政治:伊藤 惇夫

民進党が囚われる
「政策」という名の呪縛

経済:高成田 享

「大型補正」で景気は浮上するか
公共事業よりも構造改革が必要

全力で聴く。全力で届ける。参議院議員 石上俊雄

任期「折り返し地点」で
想うこと

地協探訪【特別版】

熊本地震

支えあい、復興へと一歩ずつ進もう。

INFORMATION

「矢田わか子」初登院報告

大使館便り from マッキー ⑨

在英国日本国大使館 一等書記官 斎藤 牧人

特集②

2016年度 電機連合役員体制

本部役員のONとOFF

- ▶ 電機連合本部の業務分掌
- ▶ 本部役員OFFの顔

vol.242

2016年7月、6年間にわたって電機連合を牽引してきた有野正治が委員長を退きました。後を受けるのは、有野体制を副委員長、書記長として支え続けてきた野中孝泰。ともに産別運動に励んだ歩みを振り返りながら、新旧委員長は何をバトンして、これからの電機連合にどんな将来像を描いていくのかを伺いました。

選挙の苦戦、東日本大震災：失意からのスタート

有野 2010年に委員長に就任して、すぐに加藤議員の2期目の参議院選挙がありました。当時はまだ民主党（現・民進党）政権下。にもかかわらず、12万票しか集まらなかった。この

委員長対談

S H O J I A R I N O

有野正治

らの
連合



有野正治
【ありのしょうじ】

- 1982年 日立製作所労働組合水戸支部 執行委員
- 1986年 日立製作所労働組合 執行委員
- 1992年 日立製作所労働組合水戸支部 書記長
- 1998年 日立製作所労働組合 中央執行委員
- 2000年 日立製作所労働組合 書記長
- 2006年 日立製作所労働組合 中央執行委員長
- 2010年 電機連合 中央執行委員長
- 2016年 電機連合福祉共済センター 理事長 就任

時、電機連合は相当傷んでいると感じたことをよく覚えています。わたし自身、単組と産別の違いに戸惑ってましたし、とても難しい船出になってしまいました。

野中 加藤議員の1期目の選挙が約24万票でしたからね。わたしも同じようにショックを感じました。その後の組織運営のなかで、「チームワーク」というキーワードを掲げ続けてきましたが、その背景にはこの時の教訓があったからなんです。

有野 そう、組織力の弱さが選挙に表れてしまった。結果的に民主党政権が坂道を転がりはじめ「ねじれ国会」を生んだ選挙でした。結局、「心合わせ」ができていなければ運動は意味をなさないので。だから、まずは中關組合や地協を回って、もっと人の声に耳を傾ける必要があるなど。すると、いろんな声が出てくるんです。やっぱり現場の声を聞くことが一番大事ですね。

野中 それは有野さんの背中を見て学びました。必ず現場に行き、人間関係を形成して信頼関係を築く。そうすることで、情報はすべて有野さんのもとに届くから、現場の隅々までよく目が行き届いているなど思っていました。

特集① 新旧

TAKAHIRO NONAKA

野中孝泰

これが電機

野中 孝泰
【のなか たかひろ】

- 1991年 松下電器産業労働組合乾電池支部 執行委員
- 1993年 松下電器産業労働組合乾電池支部 書記長
- 1994年 松下電器産業労働組合電池連合支部 書記長
- 1998年 松下電器産業労働組合電池連合支部 執行委員長
- 2006年 松下電器労働組合連合会(現パナソニックグループ労働組合連合会) 副中央執行委員長
- 2010年 電機連合 副中央執行委員長
- 2014年 電機連合 書記長
- 2016年 電機連合 中央執行委員長 就任

有野 本気の論議を交わさなければいけないと思っていました。組織が大きければ、なおさらです。「やれ」と言うのは簡単です。けれど、「やろう」と当事者意識を持ってもらうことが大事ですから。そのためには、現場に足を運んで、膝を突き合わせて論議するしかないと思っただけです。

野中 就任直後でいえば、やはり東日本大震災も忘れることができません。震災翌日には闘争に関する会議が控え



ていましたけど、こんな時に電機連合は会議をするのか、と叩かれましたね。

有野 こんな時だからやるのか、こんな時だからこそやるのか。迷いはありましたが、闘争に決着をつけて復興に全力を尽くすことに舵を切りました。今でもその判断は間違っていないかっただと思っただけです。

野中 あの時に回答を早く出したからこそ、すぐに復興支援にシフトできましたからね。復興はまだまだこれからです。電機連合としては地域の経済活性化に向けた産業政策の取り組みだけでなく、植林ボランティアなど地域のみなさんと組んで息の長いボランティア活動を続けていかないとけません。

有野 ボランティアに参加する子どもは、地域の人から災害についての話を聞けるので貴重な経験になると思います。

野中 助け合いの精神でいえば、共済制度も欠かせない存在ですね。先日、保険会社出身のマックス（保険代理店）の推進役が「どうしてこんなに良い共済に入らないのだろう」と首をかしげていました。生保や損保のプロの方々の言葉ですから信頼が置けます。中にあるとその良さに気づきにくいので、まさに灯台下暗しですね。



有野 共済センターは30周年を迎えますが、制度内容はどこにも負けないと思っただけです。ただ、加入率を見るとねんきん共済、けんこう共済はそれぞれ2割から2割5分ほどと、決して高くはありません。これから若者の加入率を伸ばしていきたいですね。30周年を機に、他に先駆けて介護共済を始め、内容はさらに充実しています。生活を支える意味ではこれも組合活動の一環ですから、しっかりとPRしていきたいですね。

3つの不安への産別のアプローチ

野中 産別運動としては社会運動と向き合う必要があります。これから日本をどう変えていきたいのかという議論を、国民目線、働く者目線から、職場と一緒に取って取り組んでいかないといけないと思います。

有野 労働運動の果たすべき役割は、まさにそこに尽きる。そういう意味で、電機連合が果たしてきた役割は決して小さくはない。闘争でも相場を形成したり、労働条件でも先駆的な立ち位置にいました。



野中 賃金相場を決定する社会的責任に加えて、人口減少、超少子高齢化社会のなかで、有野さんは生活不安、雇用不安、将来不安という「3つの不安払拭（アリノミクス）」ということを言われてきました。

有野 電機産業の場合は雇用不安が根を張っていますからね。特に、委員長に就任直後は、電機産業の景況は明るくありませんでした。加速するグローバル化のなかで、いかにして生き残るかを今でも模索しています。典型的な指標である売上が、まったく伸びてこない。リーマン・ショック以降、10兆円下がったままです。テレビやパソコン、携帯、液晶、半導体など、かつて雇用を守ってきたジャンルが失速し、その結果、雇用不安がつきまといまいます。

野中 政党や省庁と政策協議を行っています。予算が承認されることがゴールではありません。事業を生み、雇用を生むことをめざしながらPDCAを回していかなければいけないんです。

有野 政府は30兆円を充てて景気対策にあたりと言っていますが、果たして雇用を生む政策なのか、その検証はされていませんよね。各省庁などと政策協議を重ねても、回答はなかなか出て

きません。何のために税金をどう使うかは説明できても、その後の雇用効果までは見えていないのが実情です。

野中 競争力の源泉は人です。人をどう育成するか、「人を活かす」という視点で、われわれももっと国に対して発言していかなければなりませんね。

有野 政府のいう「解雇の金銭解決」は問題外ですが、雇用の流動化を見据えないと、これから先の雇用問題は明るくならないと思います。本人の持っているスキルを持ち運べる、そのスキルを移動先でも評価してもらえ、また退職金を持ち越せるなど、労働者を守りながら流動化を進めていく仕組みがないと雇用は守り切れないかもれません。



インダストリー4.0と エイジフリー社会

野中 足元ではインダストリー4.0も走り始めています。産業の変化は激しさを増し、産業間の垣根もなくなってしまうでしょう。

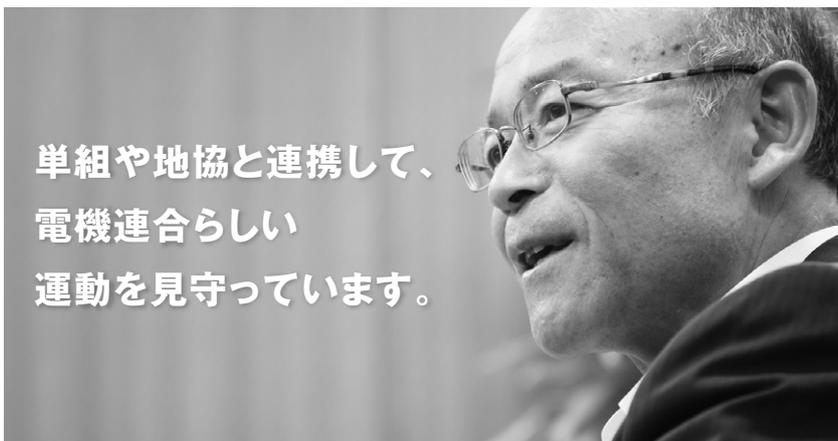
有野 今後驚異的に加速すると予測されるので、先手を打たないといけませんね。「社会に貢献する電機産業を考える会」には期待しています。

野中 有野さんはドイツに視察に行かれていましたね。

有野 ドイツでは世界をリードしているためにインダストリー4.0の先を読んでいます、時間もお金も人材も多く投入していました。国家プロジェクトとして取り組み、そこに労働組合も参画しています。

野中 最終的には雇用を生むことに結び付いているのでしょうか。

有野 懸念しているのは、産業の垣根がなくなり、メーカーが淘汰されること。モノづくりは場所を選ばなくなり国内の雇用に影響も出てきます。高度な技術が必要とする仕事と誰にでもできる簡単な仕事と、二極化が生じるかもしれません。雇用の流動化を踏まえ



単組や地協と連携して、
電機連合らしい
運動を見守っています。

て、電機連合は「エイジフリー社会」に早々に取り組んできました。これからも先を見据えて対応し、電機連合らしい運動が求められてくると思います。そのひとつのカギになるのが職場のあり方なのではないでしょうか。

野中 そうですね。組合員の政治意識調査によると、残念なことに、社会の仕組みに関心はあるけれど行動はしたくない、という意識です。これは選挙の時にも感じることです。社会運動に目を向けてもらい、行動してもらおうことは、永遠の課題なのかもしれません。

有野 企業内労働組合はどうしても経営課題が前面に出てしまう。すると、社会運動は後ろに追いやられてしまいがちです。また、一括加盟の形態をとっていると隅々までわれわれの理念が届かないことがあります。それを補っているのが地協なんです。社会活動はヨコから入らないといけないため、地協の役割は非常に大きいと思います。

野中 有野体制に変わってからは、地協巡回の回数を増やしましたよね。

有野 わたしたちが地協の事務局長や議長をしつかり支えていかないとけません。特に新人議長に思いを伝える機会は大事にしています。

野中 そこも見習いたいと思います。電機連合の加盟組合は649ありますが、これは他の産別に比べれば少ない。そのうえ、本部のある東京にすぐ来られる組合は限られます。個々の組合へのきめ細かなフォローの充実を考えると、地協の位置づけはとても重要です。

有野 数が少なければ連携はとりやすいかということ、そう単純ではありません。一括加盟組織ではタテに深いため、組織の隅々まで思いを伝えきえることは難しい。だからこそ地協がヨコから入っていくことが重要だと思います。

潮流になりつつある 統一闘争の試み

野中 有野体制のエポックメイキングとしては、統一闘争の強化プロジェクトは欠かせません。各組合の委員長がプロジェクトのメンバーとなり、約2年間論議を重ねてきました。

有野 闘争で格差改善がなかなか進まないことへの対策として始まったのですが、業績のバラツクなかで、統一闘争の維持が非常に難しくなっていた時代。少しずつ理解されてきて、方向性に間違いはないと確信できるようになりました。

野中 お互いの違いを認め合いつつも統一闘争の求心力をいかに高めるのか——何としても守るべき領域として「左の箱」、主体的に取り組む領域として「右の箱」を設け、考え方を再整理することができました。当初は、闘争が統一から個別化へと流れることを懸念する声もありましたが、結果的には、統一で戦え、格差改善も進みました。

有野 賃金は統一、という確固たる指標をつくったことが奏功したのかもしれませんが。最近では、他産別でも交渉のバラつきを縮めてきている。このことは、統一闘争の考えに即した動きで

あり、その考えが広まりつつあるんです。格差とは何か、賃金だけでなく福利厚生や退職金も含めて考えることが大事だと思います。

新人議員の躍進 政策・制度実現に向けて

野中 2012年に当時の民主党が衆議院議員選挙に負けて政権を奪取され、平野博文さんが落選した時は本当に辛かった。

有野 民主党に対する不信任感が労働組合に向かってしまったのも辛かった。

野中 野党へ逆風が吹くなかで、石上としお、矢田わか子という新人議員を輩出し、擁立議員の若返りが進みました。次の衆議院議員選挙には大畠議員の後継として現在33歳の浅野さとしさんが出馬します。

有野 議員を出すのは大変なことですが、東芝さんもパナソニックさんもよく決断してくれたと思います。何より、本人たちの決意も相当なものだったはずです。

野中 政策・制度実現のために議員と連携していくスタンスは変わりません。また政党との関係においても民進党はもちろん、自民党や公明党とも政策論

議を進めるつもりでいます。

有野 議員との連携によって国会とのつながりができ、情報も素早くアップデートされるという効能が職場には広まりづらいですね。

野中 常日頃から組合員にPRしていく必要がありますし、議員にはわたしたちの代表として国政に臨んでいてという認識を持っていただくことが大事です。政治を難しくして遠い存在から、身近で生活に直結する問題、という考えに変えていかなければいけません。

有野 イギリスのサッチャー氏の言葉に「健全な民主主義とは、健全な野党があつてこそ」とあります。今のこの一強多弱の状態は異常なことですが、民主党政権時代の不信任感を払拭しない限り、躍進はないと思います。

野中 組織内から候補者を擁立するためには育成がカギを握ると思います。また組織の外に目を向けて、電機連合と政策が一致する議員を見つけて支援するというアプローチも考えています。

7年目のバトン 新旧委員長の想い

野中 人口減少、超少子高齢化、生産年齢人口減少社会、インダストリー4.0

が進むなかで、働く者の代表として、持続可能な国づくりに参画していく必要があります。まずは、エイジフリー社会について全体像をどう描くのかをじっくり考えたいと思います。

有野 インダストリー4.0の影響で仕事が増えます。外資系企業参入も拡大し、実際に加盟組織の中でも外資系企業が増えている。闘争の際には決算時期が違ふことなど課題が懸念されます。企業には、日本らしさ、日本の労使関係を理解してもらう必要があります。

野中 日本の良いところである信頼をベースにした健全な労使関係を構築する必要があります。しっかりと話し合うことですね。

有野 野中さんは6年間ともに走ってきた仲間だから、人間性も、運動に対する想いもよくわかっています。バトンを渡すことに対して何も心配していません。社会情勢が厳しいタイミングですが、不条理とどう向き合い対応していくか、野中さんのめざすチームワークを発揮して電機連合らしい運動を進めていただければと思っています。

野中 ありがとうございます。わたしの目標は3つあります。まずは、労働運動の社会性をさらに高めて、労働組合の社会参加をさらに進めること。そして、働きがい、生きがいを持って、安心して暮らせる幸せな社会をめざします。次に、組合役員のやりがい感の向上です。魅力ある労働運動、組合は魅力ある人材で成り立つので、使命感や信念を向上させたいと思います。最後に、有野さんから受け継ぐ組織運営は現場・現実を重んじて、チームワークが育まれることをめざします。力不足、微力ではありますが、しっかりと果たしていきたいと思っておりますので、今後ともご指導よろしくお願いいたします。



チームワークが育まれる
魅力ある組織運営を
めざしていきたい。